


第2章

英語らしく聞こえるための 5つのsecrets

われわれはネイティブスピーカーを目指しているわけではありません。ネイティブとまではいかなくとも、耳障りでない英語を喋るにはいくつかコツがあります。これらのポイントを押さえて訓練することで、効率よく英語らしい話し方が身につくはずで、勉強の際には  **付録 DVD** も参考にしてください。またExerciseをつけているので、自分の英語の発音を録音する用意も忘れずに(最近パソコンについているマイクで録音できます)。

Master Point

- ▶ 日本語と英語の発音の違いを理解しよう
- ▶ 低音で発声する話し方をマスターしよう
- ▶ up-down-downの抑揚をつけてみよう
- ▶ 一気に腹から音を吐き出してみよう
- ▶ リエゾンを使ってみよう

1 Secret ①音程を抑えて話してみよう

スピーキング力はスライドプレゼンだけでなく、それに続く質疑応答においても大変重要です。またリスニング力は、やはり質疑応答の際に相手の質問を正しく理解するうえで不可欠です。リスニングとスピーキングをそれぞれバラバラに学習するよりは表裏一体と捉え、両者にとって不可欠な英語の音声面の特徴をまず学習するのがよいでしょう。

日本語の発音には次の4つの特徴があり、そのまま英語の発音に反映されるため日本人の英語が不自然に聞こえます。逆に言えば、これらを1つ1つ訓練し修正することである程度自然な英語の発音が身についてくるはずです。

日本語

- 音(周波数)が高い
- 抑揚が平坦
- 音が途切れる
- 子音のあとに母音が入る

英語

- 全体に音(周波数)が低い
- 独特の抑揚がある
- 音がつながる
- 子音のあとに子音が来ることがある

①① 1オクターブ下げてみよう

日本人の英語の発音の特徴としてまず挙げられるのは、その音程の高さです。決して高い音程で話すことが悪いわけではありませんが、男女を問わず低い音で話したほうが「英語らしく」聞こえるから不思議です。また、体格の違いも関係しているのか発声方法がそもそもも違っている場合が多いようです。ネイティブの英語は「腹から」声を出して胸郭全体に共鳴させる腹式呼吸であるのに対し、日本人の英語は「喉から」声を出していてあまり音が響きません。付録 DVD ではこの音の違いを紹介しているので参考してみてください。





①② 低音で英語を話す Exercise

Exercise 1

次の文を、1回目は普段どおりの音程で、2回目は意識的に1オクターブ音程を下げて読み、録音して聞き比べてみましょう。

This is a part of my voice training to speak English better. Interestingly, low-pitch voice sounds a bit better than high-pitch voice.

どうでしょうか？ 違いが感じられますか？ 最初のうちは、普段どおりの音程を録音して聞いてみると、その音の高さに驚くかもしれません。そこでさらに聞き比べていただきたいのが、英語のニュースやインタビューでのネイティブの音程です。その音程の低さに驚くはずです。女性でも「ここまで低い声で話すか？」というほど低い声で、しかも響き渡るような「腹から出た」声で話していることに気がつくのではないかと思います。

Exercise 2

ネイティブの音程に近づくように、次の文をできるだけ低い音程で読んで、録音して聞き比べてみましょう。今度は腹筋に少し力を入れて「腹から」声を出すことも意識しましょう。

This is a part of my voice training to speak English better. Interestingly, low-pitch voice sounds a bit better than high-pitch voice.

いかがでしょう。音程を下げようとする自然に少しお腹に力が入りますね。意識して腹筋に力を入れて発声すると、音が低だけでなく力強く響く感じになってくると思います。これが聞きやすい英語の音です(実は日本語でもそれくらいの音のほうが聞き手に安心感を与える効果があるようです)。